

1. 科目名 (単位数)	感情・人格心理学 (2単位)		3. 科目番号	PSMP3333						
2. 授業担当教員	岩月 敦									
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	秋期							
6. 履修条件・他科目との関係										
7. 講義概要	<p>人格心理学とは、個人の内側から人間の行動の法則をみようとするものである。なお人格とは、性格とほぼ同じ意味で用いられるが、態度（認知・感情・行動）、興味、価値観並びに知的理解度などを含んだ全体的な特徴を指す。ここでは人格と性格とを分けず考え方に立ち、さまざまな観点から人格の特徴を明らかにしていく。</p>									
8. 学習目標	<p>人間とはなにか。人間の本質を理解し、自己理解だけでなく、他者を理解し、人を見る目を養成することがこの授業の最大の目標である。人を見るときに、様々なバイアスがかかるが、それがなぜかということを理解し、説明できるようになることも学習目標の一つである。具体的には以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 性格とは何か、その研究史からも理解できる。 2. 性格に関する諸理論が分かり、多面的に人の行動をみることが出来る。 3. 性格の診断の仕方が理解できる。 4. 性格の形成のされ方が分かる。 5. 性格の正常・異常について様々な観点から理解できる。 6. 感情に関する理論を理解し、感情喚起の機序並びに感情の行動への影響について説明できる。 									
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ノートを用意し、各回で事前学習、事後学習として指定されたことを、毎回必ず行う。 2. 事後学習では、授業時間のふり返りと教科書の該当部分の読み返しの双方を必ず行うこと。 3. 指示された課題、レポート提出は必ず行う。 									
10. 教科書・参考書・教材	<p>【参考書】 中間玲子編著『感情・人格心理学「その人らしさ」をかたちづくるもの』ミネルヴァ書房、2020年</p> <p>【参考書・教材】 必要に応じて、随時提示する。</p>									
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己理解や他者理解を通して、人を見る目を養うことができているか。 2. 他者を見る時、さまざまなバイアスがかかるものであるが、そのメカニズムを理解できているか。 3. 感情に関する理論を理解し、感情喚起の機序並びに感情の行動への影響について説明できるか。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業への積極的参加</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>2. 課題レポート</td> <td>総合点の35%</td> </tr> <tr> <td>3. テーマ毎の理解度</td> <td>総合点の35%</td> </tr> </table>				1. 授業への積極的参加	総合点の30%	2. 課題レポート	総合点の35%	3. テーマ毎の理解度	総合点の35%
1. 授業への積極的参加	総合点の30%									
2. 課題レポート	総合点の35%									
3. テーマ毎の理解度	総合点の35%									
12. 受講生へのメッセージ	<p>心理職という形でなくても、感情・人格心理学の学びはヒトとして生きる上で有用なものとなるでしょう。そのためには、知的な意欲を持って（ほんのわずかでも授業のエッセンスを意図的に使い）授業の内外を過ごすこと（たとえば、他者や自身の思考、感情、パーソナリティについて考えをめぐらす等）がより有効となります。自身の生きている日常で、自身の周囲や社会の出来事などについて、興味や問題意識を持って頭を使うことが習慣になると、自身にとって有意義な知が蓄積、構築されることにもなります。また、分野も超えて知的好奇心、探求心をますます増加させ、自身の知の発展および、こうした喜びを味わうという癖の多い好循環の人生を生涯にわたって過ごすことが可能となります。</p> <p>新たな情報・知識の大量獲得よりも、以下の学びのプロセスをたどることを第一義とする姿勢を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) まずは自分の頭で、その時点での自身の知を抽出、可能な範囲で整理する。 (きれいにまとめられるとは限りません) 2) 自身の盲目、思い込み、思考の枠組み等も含めて、抽出した自身の知に挑むという姿勢で吟味する。 3) 必要に応じて新たな情報・知識も含めて、上記の姿勢でさらに吟味し、整理、概念化する。 <p>これらを授業内での他者との相互作用という点で考えると、以下のように表現することもできます。</p> <p>ア) 自分の考え（意見）を言語化し、伝える。 イ) <u>心を開いて、頭を使って、他者（教員・他の学生）の話、やり取りに耳を傾ける。質問をする。</u> (自分の問題としても関与する) ウ) 他者の話や会話に声を出した形で参加していない時も、<u>頭の中では常に参加する。</u>頭と心を使う。 エ) 必要に応じて、自分の考えの変化を言語化し、伝える。</p>									
13. オフィスアワー	初回の授業で通知する。									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第1回	オリエンテーションー受講契約と導入	事前学習	感情とパーソナリティの領域で関心のあることと、授業への期待等を言語化、記述する。							
		事後学習	感情・人格心理学の学びがどう役に立つのか自分なりのイメージを言語化し、記述する。							

第2回	感情心理学1： 感情の定義と理論	事前学習	感情とは何かについて、自分なりに考え、言語化して、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、感情についての自身の考えがどう変わったのかを言語化、記述する。
第3回	感情心理学2： 脳内、認知面から見る感情のメカニズム	事前学習	感情の生起について、また感情と認知の関係について、考えを言語化して記述する。
		事後学習	授業をふり返り、感情の生起と認知の関係について、自身の考えの変化等を記述する。
第4回	感情心理学3： 感情と行動	事前学習	感情と行動の関係について、自分なりの考えを言語化して記述する。
		事後学習	授業をふり返り、感情と行動の関係について、自身の考えの変化を言語化、記述する。
第5回	感情心理学4： 感情の制御と失調	事前学習	感情の制御（制御不調）について、自分なりの考えを言語化して記述する。
		事後学習	授業をふり返り、感情知性、感情の制御について、自身の考えの変化を言語化、記述する。
第6回	人格心理学1： パーソナリティの定義と分類	事前学習	人格（パーソナリティ）について、自分なりの考えを言語化して記述する。
		事後学習	授業をふり返り、類型論、特性論を踏まえてパーソナリティについて言語化、記述する。
第7回	人格心理学2： パーソナリティの測定	事前学習	パーソナリティの測定について、自分なりの考えを言語化して記述する。
		事後学習	授業をふり返り、パーソナリティの測定について自身の考えの変化を言語化、記述する。
第8回	人格心理学3： 代表的なパーソナリティ理論	事前学習	他者のパーソナリティを自身はどうアセスメントしているかを言語化し、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、代表的なパーソナリティ理論について、自身の考えを言語化、記述する。
第9回	人格心理学4： パーソナリティの形成	事前学習	パーソナリティ形成の遺伝と環境の各要因について、自身の考えを言語化し記述する。
		事後学習	授業をふり返り、代表的なパーソナリティ理論について自身の考えを言語化、記述する。
第10回	人格心理学5： パーソナリティの病理	事前学習	パーソナリティの病理について、自分なりの考えを言語化し記述する。
		事後学習	授業をふり返り、パーソナリティの病理について、自身の考えの変化を言語化、記述する。
第11回	自己と感情と人格1： 自己意識と感情	事前学習	自己意識/自己評価と感情の関係について、自分なりの考えを言語化し記述する。
		事後学習	授業をふり返り、自己評価、自己意識感情について、自身の考えを言語化し記述する。
第12回	自己と感情と人格2： 自己と認知・認知的枠組み	事前学習	自身の認知的枠組みと行動の関係について、自分なりの考えを言語化し記述する。
		事後学習	授業をふり返り、認知的枠組みや認知と行動の関係について、自身の言葉で記述する。
第13回	自己と感情と人格3： 健康的なパーソナリティとアイデンティティ	事前学習	健康的なパーソナリティとアイデンティティに関する考えを言語化し、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、上記の自身の考えがどのように変化したのかを、言語化し記述する。
第14回	自己と感情と人格4： キャリアの自己選択	事前学習	感情・人格心理学とキャリア選択について、自分なりの考えを言語化し記述する。
		事後学習	授業をふり返り、自身の考えを言語化して記述する。
第15回	まとめ	事前学習	これまでのノートすべてをふり返り、自身の変化などを踏まえて学びや感想を記述する。
		事後学習	授業をふり返り、今後に向けた自身の課題意識について言語化し、記述する。
期末試験			